

# GRIPS 国内同窓会報

発行日：2022年3月18日 発行者：政策研究大学院大学国内同窓会 発行責任者：稲葉尚子

事務局連絡先：〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1 TEL 03-6439-6048 E-mail alumni@grips.ac.jp

## GRIPS 恩師インタビュー第5回 井川博先生～行政実務と教育・研究を経験して



### 井川博先生 プロフィール

1975年東京大学法学部卒。同年自治省入省，1984年山形県総務部地方課長，1985年埼玉大学大学院政策科学研究科助教授，1991年自治大学校教授，1992年大阪府総務部財政課長，1994年自治体国際化協会シンガポール事務所長，1999年北海道大学法学部教授，2002年都市センター理事・研究室長，政策研究大学院大学客員教授，2004年政策研究大学院大学教授，2007年政策研究大学院大学比較地方自治研究センター所長，2017年帝京大学法学部教授，2018年帝京大学法学部政治学科長・教授（現職）

#### 主な論文等

「東南アジアにおける地方分権改革」大津浩（編）『分権改革下の地方自治法制の国際比較』（有信堂）281-306頁

#### CONTENTS

GRIPS恩師インタビュー第5回 … 1
国内同窓会第3期役員体制発足… 4
国内同窓会副会長・幹事 プロフィール… 5
2021年同窓会を開催しました … 6
修了生紹介（兵庫県） … 7
同窓会・大学からのご案内・ 編集後記… 8

高木(インタビュアー)

きょうはありがとうございます。さっそくですが、先生は岐阜のご出身で？（以下、敬称略。文中の同窓会役職名は2021年10月現在。）

井川

岐阜県ですけれども、小さいときは宮代というところで、今は垂井町になっています。小学校に入学する前に岐阜市に移りました。

高木

高校時代の思い出は？

井川

やはり、アメリカに行ったことですね。高校3年のときにAFS（American field Service）で1年間、ペンシルバニア州のエリー湖から30マイルぐらいのコリーという小さな町に滞在しました。いろいろな経験ができて楽しかった。AFS卒業40周年のとき、また行ったのですよ。GRIPSの教授にAFSの卒業生がいる、と電話がかかってきて。2020年の50周年はコロナで中止でしたが。

高木

さて、東大法学部を卒業されて自治省に入られて。

井川

自治省は自由にものが言えそうな印象があって入りました。入省後、京都府の財政課、税務課に勤務しました。予算査定のほか、税収見積もりをやって結構面白かった。法人関係税の超過課税の問題にも関係しました。京都府も実施することになりました。政治的な問題もあって大変でしたが、それも勉強になりました。

高木

その後、山形県地方課長などおやりになって、GSPS にいらっしゃった。実務に

精通した行政官を助教授で迎えるという人事は、当時は画期的だったと私は思います。

井川

政策研究には実務家が必要だという吉村先生のお考えがとても良かったと思います。今では実務出身の教授職が他の大学でもたくさんいますね。

高木

GSPS には2年おられて、また、行政に戻り自治大学校教授、大阪府財政課長、自治体国際化協会シンガポール事務所長で海外駐在。それから北海道大学教授、行政と学術と両方の世界で仕事をされました。



インタビューの様子

井川

都市センターのときは、実態調査をしっかりやりました。それも勉強になりました。東大におられた大西隆先生、森田朗先生、危機管理の中邨章先生などにお世話になりました。

高木

あれだけの調査物は大学の先生の個人ではなかなかできないですね。そしてGRIPSに戻ってらっしゃった。

井川

ええ、定年まで13年ほどずっといました。

高木

GRIPSで先生から修士論文のご指導をいただいた自治体職員が大勢いますね。また、先生が手掛けた調査研究も膨大な報告書で英語版もあって。大変な業績ですね。

井川

科研費などを利用して、アジア諸国の地方自治、地方分権などについてほぼ毎年調査研究を実施しました。京大名誉教授の村松岐夫先生などに大変お世話になりました。

高木

さて、話が戻りますが、埼玉のGSPS時代の思い出はいかがですか？

井川

いや、面白かったですよ。政策科学を初めて勉強しました。ドロアの『政策科学のデザイン』って、あれはやはりすごいなと思いました。哲学も大事だとか、いろいろなことが書いてあるから。

高木

あれはみんな読みますよね。

井川

埼玉では、経済学の吉野直行先生、榊原健一先生たちと一緒に小さな研究会をやりました。あの頃はまだ地方財政ってそんなメジャーじゃなかったから、その実務、実態などについて、吉野先生や榊原先生も興味を持ってくれました。

高木

吉野先生は慶応大学に移って有名になる前でしたね。政治学の薬師寺泰蔵先生もおられて『公共政策』などのベストセラーを書く前でした。

井川

そうです。あの頃は研究科も小さかったから、先生の数も少ないから、2階あたりで先生方が集まって話をしました。児玉文雄先生などから、何で地方財政はこうなっているのだとか、いろいろ聞かれました。

高木

みんな一緒に集まるんですね。留学生も一緒だった。面白かったですね。私もいました。

井川

大変勉強になったと思います。先生どうしのコミュニケーションがあって非常に良かった。留学生も良かった。例えば、タンチャイさん、タイで有名な学者になっています。ちょうど私がいたころの留学生ですね。

鈴木※

自治省時代、どういう仕事が一番心に残りましたか。

※同窓会幹事

井川

一つはやはり交付税の法律改正などの仕事です。交付税課は、非常に忙しかったです。それは今でも良く憶えています。もう一つは、公務員部では組合とのやり取りが大変でしたが、面白いと思ったのは、派遣法※の検討、公益法人等への公務員派遣の問題の調査検討です。

※公益的法人等への一般職の地方公務員の派遣等に関する法律

柏木※

いろいろな団体に派遣する法律ですね。

※同窓会副会長

井川

あの法律改正は、私が公務員部にいた頃から問題になっていて。公務員の身分が不安定で、問題があるのです。その調査検討を行ったのです。公務員一課のときです。

柏木

1990年頃ですかね。

井川

法律が通ったのはもう少し後です（2000年施行）が、自分たちが調査検討してみて、色々な問題があり、大変面白かったし、勉強になりました。公益法人等に退職で行ったり、休職で行ったりとか、いろいろな形態があったのです。最高裁の判決が出て違法だとされたこともあり、今は法律が整備されています。

高木

さてそれからGRIPSに戻られて研究、教育をされました。埼玉のGSPSと比べていかがでしょうか？GRIPSとGSPS、先生は、両方比べられますね。

井川

GRIPSのほうがステータスは上がったかも知れませんが、アットホームな感じは、やはり埼玉だったかな……。

高木

GRIPSのほうがGSPSより、いろいろな分野で学問体系がよい方向に発展してきていると。

井川

それはそうですよ。

高木

長年、吉村先生が試行錯誤でやられて。日本では初めての試みが多かったですね。防災とか文化芸術もやっているし。今では、更にいろいろなコースがつけられています。

井川

吉村先生には「先見の明」がありましたね。

高木

埼玉の修士課程は2年でGRIPSは1年。埼玉のころも自治体から来て1年で帰る研修生がいて修士号はもらえなかったですが、GRIPSではもらえる。それは良いことなのですが、やはり、1年で論文を書くのは大変だと思います。指導する方も。埼玉の頃は、長い夏休み、春休みもあって学生生活が楽しめました。

井川

1年で卒業しなきゃいけないから。地域政策プログラムも私が来た最初の頃は30人近くの学生がいました。2000年代後半頃はね。各コースができて分かれていき、学生が少なくなりましたが、先生はそんなにいなかったから、4~7人の主査を担当するという感じだったかと思います。

高木

実務と研究・教育と両方おやりになっていて、根っからの教育の先生と違うものを持っていらして、それが大学院大学の政策研究にとってはよかったと私は思うんですが。GRIPSの学生はどんな印象でしたか？GSPSの我々と今とは世代が違いますからね。

井川

そんなに違わないと思います。やはり、時間的な余裕がなくて大変です。1年はちょっとかわいそうな気がしますね。

鈴木

今は、半年ぐらいは講義をやって、半年ぐらいで論文書くようにしていますね。

井川

大体7月頃からイメージを作り、検討して行って、9月とか10月ぐらいから本格的に調査研究を行って行く。厳しいですよ。そして出来上がりが年明け。2月上旬頃に最終発表会があるからね。そうすると書く時間が限られています。

鈴木

お正月なんかないですね。

井川

ない。こっちもないです、お正月は。正月前に一応完成させて持ってこいと言っても、なかなか出来上がってこないから。正月に読んだりして直さなきゃいけない。結構大変です。

高木

では、GRIPS時代が一番楽しかった思い出はないですか。

井川

悪い思い出はないですね。GRIPSは外国のいろいろな人と一緒に議論するなど、そういうことが出来るのが楽しかった。もう一つは、埼玉のときの人でも学者になった人がいるでしょう。

高木

ええ、何人か。同期でも1人、学者になりました。

井川

GRIPSへ行って、職場に復帰して実務をやりながら学会の研究会などでまた勉強したいという人がいる。それはやはりうれしいですね。私は今、地域政策学会で活動していますが、政治とか、福祉とか、農業とか、いろいろな研究者がいます。卒業生で学会誌などに投稿したいという人がいて、今でも「ちょっと見てくれませんか」と言われると、うれしいです。

高木

気軽に頼まれてもそれは、読むのは大変ですよ。先生は本当に面倒見がいいですね。

それでは、結びに修了生の皆様に何かメッセージはありますか？

井川

科学技術の進歩は人々の生活を豊かにしてきました。しかし、その一方で、人々が対処すべきさまざまな課題を生んでいます。典型的には「核兵器」の問題がこれに当たりますが、「環境」の問題も科学技術の進歩により人間の自然を変更する力が増大した結果であると考えられます。

現在、情報通信科学（ICT）や人工知能（AI）などが急速に進歩する中で、経済の発展と人々の利便性の向上が期待されています。こうした中で、さまざまな科学技術の進歩に伴い生じてくる新たな問題に適切に対処していくことは、日本のみならず世界にとっても大きな課題であると思います。科学技術の進歩を有効に活用しつつ、それによって生ずるさまざまな問題にどう対処していくか？人々の生活の実態を踏まえて、幅広い視点から人々の生活の豊かさ、人々の幸福について考えることだと思います。

GSPS、GRIPSで学んだ知見と経験とを最大限生かし、それぞれの立場において、人々のより良い未来のために努力いただければと思います。

高木

本日はお忙しいところ、誠にありがとうございました。

（高木昭美・1988年GSPS修了・同窓会幹事（～2021））



GRIPS六本木校舎

## 国内同窓会の第三期役員体制が発足しました ～新会長のもと運営に当たります

### 稲葉尚子新会長からのあいさつ

2017年に産声を上げた国内同窓会も昨年11月に丸4年を迎え、2期勤められた初代名取会長の後任として就任いたしました。

私は、1987年、埼玉県庁から埼玉大学大学院政策科学研究科への派遣です。地元なので通常の異動に似た気分もあり、学生の自覚に欠けていたと正直に告白しますが、吉村研究科長をはじめとする錚々たる先生方と指導教官・伊藤大一先生の優しいご指導により、修了することができました。

熊谷で開催された「さいたま博覧会」案内の思い出等、2年間で培った海外にも及ぶ横のつながり、そして県内での同窓生の縦のつながりは私の大きな財産です。

発展したGRIPSの国内同窓会長を引き継ぐのは、光栄であるとともに大変荷が重いのですが、多くの学生が似通った背景をもつ当大学院では、特に同窓生のつながりが貴重だと思っています。

コロナ禍により、施設見学なども行えず、総会も2年連続web開催となりました。一方で、遠方の会員が参加できるメリットもありました。「危機」は漢字で「危険(danger)」+「機会(opportunity)」とケネディが語ったそうですが、少しでもopportunityをみつけて会員の皆様とともに成長していきたいと思っています。

どうぞよろしく願いいたします。



#### [会長プロフィール]

1981年埼玉県庁入庁。1989年埼玉大学大学院政策科学研究科修了。定年までの37年間に8部局19か所をまわり、最終盤は文書課長、観光課長、秘書課長、報道長、県民生活部長。埼玉県の魅力や地酒（埼玉県は日本酒生産量全国第4位）を広める仕事に取り組んできた。観光は地元民が地元を知って愛することから始まるので、県民の埼玉愛をいかに育むかが最大関心事。

(現職：埼玉県歯科医師会参与)

### 名取前会長からのメッセージ

～GSPS、GRIPS同窓会のますますの発展を願って！～

初代会長 名取はにわ

2017年11月、GSPS創設40周年、GRIPS創設20周年の記念祝賀会で、国内同窓会が設立されました。田中明彦学長の下、横道清孝理事・副学長（当時）のリーダーシップによるものです。

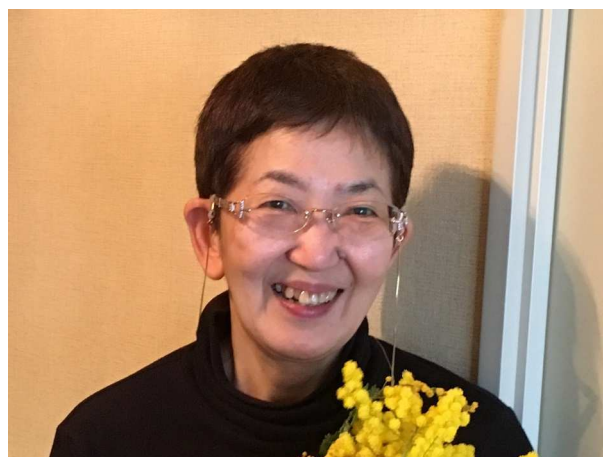
初代会長に選出された私が、2期4年の任期を全うできたのは、稲葉副会長以下素晴らしい役員の方々や大学関係者のご尽力のおかげで、皆様に心から感謝申し上げます。

高木幹事と大学当局のご尽力で、ニューズレターが発行され、GRIPSや同窓生の近況を知ることができるようになりました。

第1号で、吉村融名誉学長にインタビューさせていただきましたことは、忘れられない思い出です。

11月23日が、国内同窓会の日として定着してきています。新型コロナウイルスのため、2020年、21年の国内同窓会はリモートで開催されました。

国内同窓会は、卒業生の情報交換や連携を目指すと共に、GRIPSの応援団としての使命を持っています。



国立大学法人をめぐる情勢は非常に厳しく、中でも社会科学系大学院大学GRIPSは、唯一であるからこそ、厳しい戦いの中にあります。GRIPSは、田中明彦学長の下、新たなプログラム開発等、積極的に未来を切り開いておられます。

同窓会活動も5年目を迎え、稲葉会長のもと、ますます発展されますことを祈念いたします。

(GSPS第2期卒業)

## 国内同窓会副会長・幹事プロフィール

## 新任副会長・幹事

## 副会長 山本亮三(やまもと りょうぞう)



1956年兵庫県姫路市生まれ。1978年兵庫県庁入庁。1983年-85年埼玉大学政策科学研究科派遣 指導教官 大山達雄先生。秘書課長、県民文化局長、県立病院事業副管理者、会計管理者、代表監査委員等歴任。2015年県を退職し、公益財団法人兵庫県芸術文化協会理事長に就任、現在に至る。

(現職：(公財)兵庫県芸術文化協会理事長)

## 副会長 坂明(さか あきら)



デジタル庁CISO。1981年警察庁に入庁。1986年GSPS修。目黒警察署長、通商産業省(現経済産業省)通商政策局中南米室長、兵庫県警察本部長、国土交通省大臣官房審議官(自動車局担当)等を務めたほか、生活安全局セキュリティシステム対策室長、情報技術犯罪対策課長としてサイバー犯罪対策に従事。2002年にはハーバード大学国際問題研究所(WCFIA)客員研究員、2008年から2年間は慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授。

2021年開催された東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、同組織委員会CISOを務めた。(現職:デジタル庁CISO)

## 副会長 反町敦(そりまち あつし)



1979年群馬県庁入庁。1988年埼玉大学大学院政策科学研究科修了。修士論文は榊原健一先生にご指導いただきました。群馬県庁では国体開催、税務、財政、企業局、企画、議会事務局、総務部局で予算編成、世界遺産登録、コンベンション建設等に携わりました。2019年8月副知事を退任し、現在は群馬経済研究所で調査・分析を通じて県内の経営者に役に立つ情報の発信に努めています。(現職:(一財)群馬経済研究所理事長)

## 副会長 山下保典(やました やすのり)



1984年奈良県庁入庁。2001年政策研究大学院大学地域政策プログラム修了。GRIPS一期生として新宿区若松町の仮校舎で横道先生や辻先生から厳しい指導を受けながらも楽しく濃密な時間を過ごしました。2021年3月に奈良県庁を定年退職し、在職時よりは時間的な余裕を感じる日々でhuman networkの大切さを改めて感じています。同窓会活動にしっかり貢献したいと思います。よろしくお願ひします。(現職:奈良県土地開発公社理事長)

## 幹事 中村理史(なかむら まさふみ)



平成元年卒業の中村理史です。東京都からの派遣で埼玉大学大学院政策科学研究科修了です。吉野先生のゼミでした。埼玉大学大学院では、まだ日本人・アジア系外国人合わせて100人に満たない中で学生生活を満喫させて頂きました。現在はJR貨物系のグループ会社に在籍しております。今回、同窓会幹事になり、社会見学会の企画等で、同窓会員の皆様や在学生との交流に努力していきたいと考えていますので、よろしくお願ひいたします。(現職(株)ジュエール貨物・不動産開発 総務企画部総務グループ担当部長)

## 幹事 松田(西谷)美恵子(まつだ(にししたに)みえこ)



1982年東京都入都。1992年埼玉大学大学院政策科学研究科修了。修士論文は藤正厳先生の御指導で在宅医療技術について研究しました。東京都では、衛生局、建設局、福祉保健局等に勤務し、2021年に定年退職した後は、(公財)東京都福祉保健財団で福祉用具講習会や第三者評価の運用に関する仕事をしています。大学の非常勤講師で社会福祉概論の講義もしています。

(現職:(公財)東京都福祉保健財団福祉情報部評価支援室連絡調整担当主査)

## 幹事 関口吉男(せきぐち よしお)



1978年日本国有鉄道入社。1987年埼玉県入庁。1996年埼玉大学大学院政策科学研究科修了。修士論文は伊藤大一先生と刀根薫先生に指導いただき、第三セクター都市鉄道の課題に関するものでした。2016年3月に定年退職し、現在、建設会社に勤務の傍らNPOや大学で交通経済の講義等をしています。引き続き2期目でお世話になります。(現職:ショーボンド建設株式会社理事)

## 幹事 鈴木賢一(すずき けんいち)



1989年千葉県庁入庁。1996年埼玉大学大学院政策科学研究科修了。修士論文は辻塚也先生にご指導いただきました。先生と一緒に各地を視察し、事例研究を行ったのが印象に残っております。現在、千葉県教育庁に出向し、スポーツ施設の整備や選手強化、ちばアクアラインマラソンなどを所管する体育課にて課内の予算や人事等を担当しております。同窓会報の編集を担当いたします。

(現職:千葉県教育庁教育振興部体育課副課長)

## 2021年度国内同窓会をオンラインで開催しました！



## 2021年度国内同窓会開催報告

新型コロナウイルスの感染者数が少なくなっている2021年11月23日に第5回同窓会を開催いたしました。昨年に続き「Zoom」によるオンラインでの開催となりました。オンライン同窓会は昨年の実績がありましたので多少安心感がありました。

オンライン同窓会ということで、進行役は反町副会長に務めていただき、先ず名取はにわ会長の挨拶で始まりました。名取会長から役員紹介が行われ、さらに、今期での会長退任のお話があり、初代会長としての思いが強く感じられました。同時に退任の柏木副会長からも同窓会立ち上げのお話などがありました。



続いて、高木幹事からコロナ禍の同窓会活動の難しさやこれまでの同窓会開催状況等がスライドを用いて紹介されました。その後、GRIPSの田中明彦学長のご挨拶とパンデミック下の大学の状況や、今後のGRIPSにおけるデータサイエンス教育のさらなる推進についてもお話をいただきました。

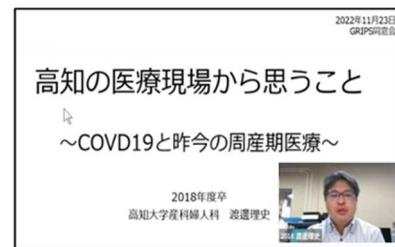


次に、国内同窓会の発足から4年となりますので、規約に則り同窓会の会長選出が行われ、満場一致で稲葉尚子現副会長が選任されました。副会長と幹事が別記のとおり指名されました。また、柏木修一副会長と小谷和弘幹事、高木昭美幹事が4年間の任期を終え退任することになりました。ありがとうございました。

次に、修了生の報告がございました。2021年に開催されたオリパラ運営でご活躍されました荒田有紀様（2001年入学 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 持続可能性部長）から「東京2020大会と持続可能性」と題して、コロナ禍の大会開催の難しさ、よりよい未来へともに進もうという課題についてわかりやすくお話しいただきました。



続きまして、渡邊理史様（2018年入学 高知大学医学部附属病院 産科婦人科 助教）から「高知の医療現場から思うこと」と題して、covid-19と周産期医療についてお話しいただきました。コロナ禍の周産期につきまして行政や医療機関等の役割分担の重要性を再認識できました。お二人様ご多忙の中大変ありがとうございました。



次に、同窓会ご担当の高田寛文副学長から「私とGRIPS」というプロフィールを含めた熱いお話をうかがいました。「縁と繋がり大切に！同窓会を大事にしましょう」とのことです。



最後に、ギャラリービューをスクリーンショットで撮影（許諾者のみ）しました。なお、今回は2回目のオンライン同窓会で、約60名が参加し、コロナ禍ではありましたが有意義な一時でした。ご支援いただきました大学事務局のみなさま誠に有難うございました。

今回は、政策研究大学院大学創設25周年記念の大会であり、新型コロナウイルスが収束し、是非とも大学で開催したいものです。（関口吉男・1996年GSPS修了）

## 修了生紹介

## 政策の現場からNo.5

## 「芸術文化立県ひょうご」を目指して

山本 亮三さん (GSPS1985年修了)  
(公財)兵庫県芸術文化協会理事長

今回の修了生紹介は、兵庫県で芸術文化の振興に取り組む修了生、山本亮三さんからご寄稿いただきました。

平成27年に兵庫県を退職し、現在、芸術文化の振興に携わっています。当協会は、全国初の県立劇団を擁するピッコロシアター、兵庫県ゆかりの横尾忠則現代美術館などを管理しているが、特に「県立芸術文化センター」を紹介します。

この施設は、平成17年に阪神淡路大震災の復興のシンボルとして、四面舞台2001席の大ホール、800席の中ホール、417席の小ホールを有するパブリックシアターとして開設されたものです。

## 兵庫県立芸術文化センター外観



建設に先駆けて故・山崎正和氏を芸術監督としてソフト事業を実施させ、機運醸成を図っているさなか、平成7年1月17日、阪神・淡路大震災にあって計画の凍結を余儀なくされましたが、平成11年に再スタート。ハードウェアだけでなく、洗練されたソフトウェアを、との考えから、基金によって長期的な財源を確保し複数年の主催事業の充実を図りました。さらに佐渡裕芸術監督のもと3年間のアカデミー機能を持った「センター管弦楽団(通称PACオケ)」が設置されました。車内吊り広告、5万人の無料会員制度、予約電話受付システム等を構築してマーケティングにも積極的に取り組みました。

この結果、想定を大幅に上回る年約300回の主催事業、なかでも、佐渡監督のオペラは、年6~12回の上演がほぼ完売。年9回全27公演のPACオケ定期演奏会とともにセンターの看板事業となっています。

特筆すべき事業は「わくわくオーケストラ教室」。県内の中学校一年生全員約5万人が劇場という空間で生のオケの演奏を聴く体験事業です。親しみやすい解説を交えた約1時間10分のプログラムが感動を与え続けています。各ホールの貸館利用率も90%を超え、毎年50万人前後の来場者があって当初の目標を大きく上回る実績を残してきました。

しかしながら、新型コロナウイルスの影響は甚大で、入場者数、開館時間などの制約があり、一時は閉館を余儀なくされました。しかし、芸術文化に触れたいという声に応えるため、令和2年4月にはオンラインでの「すみれの花咲く頃プロジェクト」を、同年7月にはコロナ対策専門家の科学的知見のアドバイスのもと合唱・独唱・オーケストラが共演する公演など積極的に事業を実施し、兵庫もにぎやかさを取り戻しつつあります。

実はGRIPSの先生方にもセンター運営に関わってもらっています。オペラ制作団体と国内の複数館によるオペラ共同制作の検討会は吉村融先生の提唱でスタートしたのですが、今や共同制作は当たり前となり、吉村先生の慧眼に改めて敬意を表する次第です。また、文化政策の垣内恵家子教授には今もセンター運営委員などお願いしています。

修了してからもこのようなGRIPSとの関りを持たせていただいていることに感謝しております。

ほかにも兵庫県には安藤忠雄氏設計の県立美術館、平田オリザ学長の県立芸術文化観光専門職大学など先進的な芸術文化拠点もあります。同窓生の皆さんにご覧いただく機会があればと思っています。

(山本亮三・1985年GSPS修了・国内同窓会副会長)

## オンライン修了生名簿をご活用ください！

オンライン名簿は、国籍、所属機関、修了年度、プログラムという枠を超え、国内外に広がる政策形成に携わるネットワーク構築に役立てていただける貴重な財産です。ぜひご活用ください。

**何ができる？**：GRIPS/GSPS修了生情報（出身国、勤務先、プログラム、メールアドレス等）が検索可能。

**どう活用する？**：「担当業務で行き詰った時、他県の担当者を探し、情報交換をする」、「自分の県・市と国際友好都市になった国の修了生を探す」、「取引先に修了生がいるか探す」など。

**アクセス方法は？**：<https://gportal.grips.ac.jp/fw/dfw/ASTSV004/>にアクセス、GRIPSのID（学籍番号）とパスワードでログイン、表示されたGateway画面から、「メニュー」→「教員・学生検索」→「修了生検索」で検索画面表示。

**ID（学籍番号）を忘れてしまったら？**：

[alumni@grips.ac.jp](mailto:alumni@grips.ac.jp)までご連絡ください。

**パスワードを忘れてしまったら？**：ログイン画面に表示される「Forgot your password?」をクリックして、再設定。



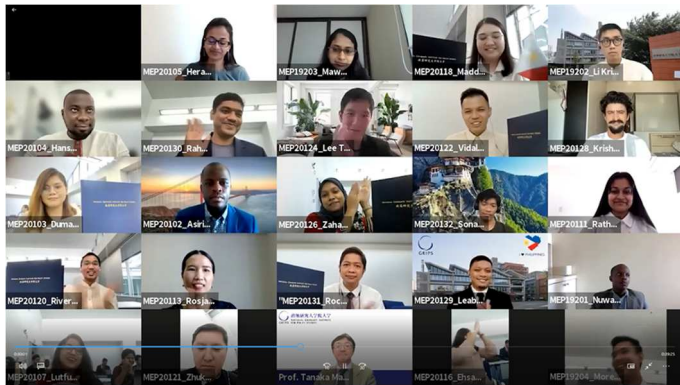
母校の動き

2021年9月秋季学位記授与式挙行

2021年9月15日、GRIPS創設以来21回目の秋季学位記授与式を挙行、世界42ヶ国からの修了生159名（修士154名、博士5名）に学位が授与されました。

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策のため、ウェビナー形式での開催となりましたが、その結果、式典開催を待たずに母国に帰国した留学生もオンラインで出席することが可能となりました。

国際協力機構（JICA）理事長の北岡伸一様による記念講演を賜り、修了生代表としてTwo-year Master's Program of Public Policy (MP2)のMoreno Neil Irwin Sandovalさん（フィリピン貿易産業省）が修了後の抱負を述べました。



GRIPS基金ご協力をお願い

GRIPSには、ミッドキャリアの行政官を中心に、日本を含む世界46の国と地域から学生が集まっており、世界で活躍できる指導者・政策プロフェッショナルの養成に努めています。

皆様から募った基金を奨学金として、未来のリーダーを支援することにより、日本及び世界の持続的発展に繋がること、また、研究資金として、本学の政策研究活動を支えることにより、この分野での世界における本学ひいては日本のプレゼンスの向上に繋がることが期待されます。

基金へのご寄付は、銀行振込・クレジットカード決済にて受け付けております。ぜひ、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



国内同窓会報に掲載する原稿を募集しています

国内同窓会の各支部や各地域の会合のご案内、開催のご報告、会員の近況などを掲載したいと思っています。

修了生紹介「政策の現場から」に登場くださる方も自薦他薦問わず募集中です。寄稿、行事のお知らせや写真など、[alumni@grips.ac.jp](mailto:alumni@grips.ac.jp)までお送りください。

大学からのご案内

GRIPSフォーラムを開催しています

GRIPSフォーラムは、政策に関わる諸問題への理解を深める場として、本学の政策研究に関する広範なネットワークを活用し、各界のリーダーや有識者を招いて開催されています。

毎年十数回、日英同時通訳にて行われ、正規課程の学生には授業の一環として単位化されているほか、一般の方にも広く公開しています。ぜひ、ご参加ください。

[http://www.grips.ac.jp/jp/events-cat/grips\\_forum/](http://www.grips.ac.jp/jp/events-cat/grips_forum/)

【開催概要】

日時：春学期（4～7月）及び秋学期（10～1月）の月曜日 16:40～18:10

場所：オンライン開催（Zoom Webinar）



※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加者及び関係者の健康・安全面を考慮しオンライン開催とさせていただきます。

修了生の皆様へ

～支部設立をお手伝いします！

国内同窓会は、各地方自治体、中央省庁等様々な単位で支部が発足しています。

今後、国内同窓会への新たな参画を希望される方、また、修了生による懇親会等の予定があり、それをきっかけに新たに同窓会支部を発足させたいとお考えの方は、ぜひ、以下の担当までご連絡ください。

支部発足のお手伝いをいたします。懇親会等にも、可能な限り教職員が出向いて、参加させていただきます。

■連絡先：alumni@grips.ac.jp

■ ■ 編集後記 ■ ■ ■

このたび、同窓会報の編集を担当することになりました鈴木です。何分、不慣れな点も多く、皆様に御迷惑をかけるかと存じますがよろしく願います。

第5号は、井川先生のインタビューを掲載しました。私は、残念ながら、先生から教わったことはなく、初対面でしたが、先生の温かいお人柄、また、研究に対する情熱がひしひしと感じられました。

同窓会も5年目を迎え、稲葉新会長の下、大学とともに事業を進めてまいります。是非とも、今年同窓会は皆さんとGRIPSに集まりたいと思っています。

今後とも、会員の皆さんの御支援、御協力を賜りますよう、お願いいたします。

（鈴木賢一 同窓会幹事・GSPS 1996年修了）